

輸出事業計画

※申請者名：有限会社ゴールド農園、品目：りんご

1. 輸出における現状と課題

【現状】

ゴールド農園は平成4年に法人化し、りんごの自社農園3.4haの他、令和3年度には弘前市他のりんご生産者433名とりんごの委託販売契約を取り交わし集荷・貯蔵・販売業務を行い、令和4年7月現在登録面積は620ha、りんご出荷量10,381t、生果販売金額は約35億円となっている。

(令和3年産りんご取扱実績)

品 種	出荷量 (t)	内葉とらず 栽培率(%)
早生種(つがる・きおう等)	1,035.6	97.1
中生種 (早生ふじ・トキ等)	786.3	100.0
ジョナゴールド	220.7	46.1
王林	340.7	100.0
シナゴールド	795.4	100.0
無袋ふじ	4,872.7	97.0
有袋ふじ	2,110.4	97.4
その他	219.2	42.7
合 計	10,381.0	95.4

当社の葉とらずりんごは、台湾に向けて平成23年から25年に試験的に輸出を行ったところ、相手先国からは高く評価され継続的なオファーは増加傾向にあったものの、相手先国が求める検疫条件に対応するためのエアー掛け作業等の労力負担が大きかったほか、当社の既存選果機ではりんごに押し傷が付きやすく、輸送中の劣化等が心配されたことから、安定的な輸出にはつながらなかった。

その後も小ロットでの輸出は継続しているが、選果能力やエアードスター等の輸出に必要な設備の不足により、大ロットでの商談については見送っている状況にあり、令和3年産の輸出状況は香港向けに65.3 tとなっている。

年 度	輸出品目	主な輸出先	輸出量	輸出額
平成23年産	りんご (ふじ)	台湾	13.4t	5,587千円
平成24年産	りんご (ふじ・金星)	台湾	4.0t	1,763千円
平成25年産	りんご (ふじ・金星)	台湾	5.7t	2,521千円
平成26年産	—	—	—	—
平成27年産	—	—	—	—
平成28年産	りんごジュース	台湾	5.9t	1,470千円
平成29年産	—	—	—	—
平成30年産	—	—	—	—
令和 1 年産	—	—	—	—
令和 2 年産	りんご (ふじ)	香港	10.3t	3,934千円
令和 3 年産	りんご (つがる・早生ふじ・ジョナゴールド・王林・ふじ)	香港	65.3t	25,803千円

(※令和3年産は令和4年7月31日現在実績)

【課題】

＜生産・製造＞

- ①生産者の高齢化及び少子化による人手不足で、農家及び当社選果場の季節雇用作業員が不足している。
- ②現有のりんご荷受場所が狭小であることと、老朽化したりんご選果機を使用していることで作業効率が悪く、新規出荷希望者の受け入れができない。
- ③既存施設には選果設備に連結したエアー掛けできる設備がないため、別にエアー掛けをする等作業効率が悪く大量の出荷オフアーに対応できない。
- ④現在取引している企画販売を欠品させず、かつ海外輸出の新規展開を図るためには現在の取扱量を拡大させる必要がある。

＜流通＞

- ⑤既存選果機（バケット式）では、選果工程で押し傷が付きやすく、海外への輸送・保管中に傷が顕在化することで、クレームが付きやすい。
- ⑥輸出先国の現地到着後の棚持ちの鮮度保持を考慮すると、外気に触れる時間を極力短縮させる必要があるため、外気温が高い時期の現存施設での荷造は鮮度保持対策が必要とされる。

＜販売＞

- ⑦トキや王林など黄色系品種は特に海外の取引価格が高いため、新規の販売先を海外輸出に求めたいと考えているが、これまで台湾などへの輸出は作業効率の低下を恐れ輸出のオフアーをほとんど断っているため、海外への販路開拓にあたっての販売ルートの開発が必要とされる。

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組】

＜生産・製造＞

- ①「葉とらず」栽培の推奨と園地における「山選果」の簡易選果の実施、及び入庫時のりんご積付段数を4段階積みとすることで生産者の園地労力の軽減を図る。
また、令和6年度に新たな選果機設備の本格稼働を計画し、A Iによる等級選別の実施と一部導入するロボット協調箱詰め機により、慢性的な作業員不足を補うとともに将来的な外国人人材の雇用につなげる。
- ②新たに整備するりんご集出荷貯蔵施設での入出荷を実施することで、新規出荷農家の受け入れを可能とする。
- ③新選果機設備に選果と同時にすべてのりんごにエアー掛けをする輸出検疫に対応可能な設備を設置することで作業効率の向上を図る。
- ④新たなりんご集出荷貯蔵施設の導入により、新規出荷者の取り込みと既出荷者のトキ、王林などの出荷量の底上げを推進することで取扱数量の増大を図る。

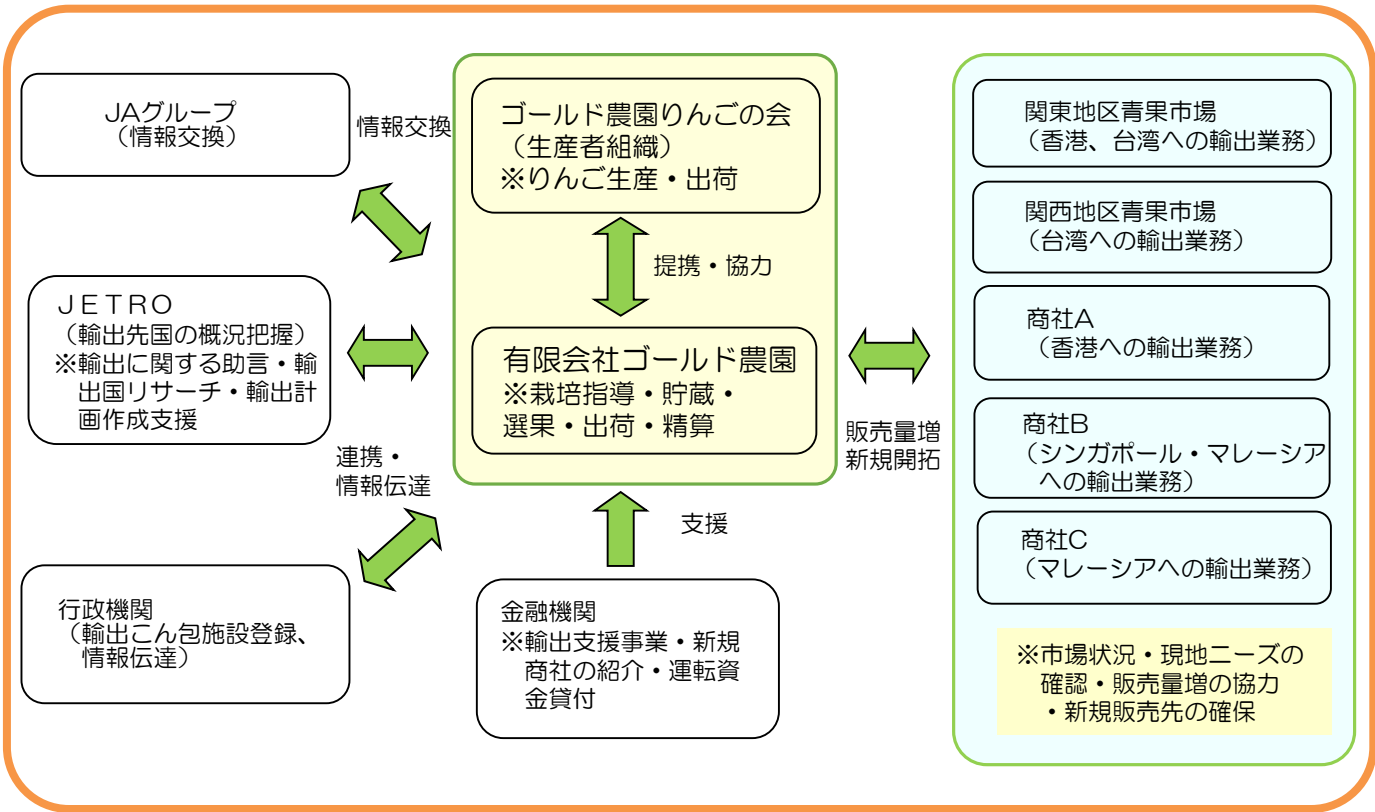
＜流通＞

- ⑤選果工程で傷が付きにくいフリートレイ式選果機を新規導入することで、海外への輸送・保管に対応できる品質を保持する。
- ⑥製品を貯留するためのプールラインに保冷設備を導入することで、外気温が高い時期の荷造においてもりんごの温度上昇を抑え、現地販売時の鮮度を保持する。

＜販売＞

- ⑦新たにりんご集出荷貯蔵施設を整備することで、取扱量許容が約2割近く増大するため、新規出荷希望農家を取り込み取扱量の増大を図る。それとともに、新規販売ルートの開発として現在取引中の各取引先や、新規の輸出事業者との取引を推進する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

(輸出品目: りんご)

	現 状 (令和2年産)	目標年 (令和8年産)
輸出額(千円)	3,934	201,000
輸血量(t)	10.3	450.0
輸出先国	香 港	香港・台湾・ シンガポール・マレーシア